

新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応・支援に関するアンケート

実施:特定非営利活動法人東京都北区市民活動推進機構
(北区NPO・ボランティアぷらざ指定管理者)

<調査概要>

- ◆対象:北区NPO・ボランティアぷらざ登録団体、区内NPO法人 253団体
- ◆回答数:120件 <回答率:47.4%>
- ◆調査期間:2020年7月1日～7月31日
- ◆実施方法:対象団体へアンケートを郵送。回答は郵送、FAX、E-mail、持参のいずれかにて受付

<結果要約>

- ◆活動に「現在影響が出ている」との回答は84%、「今後影響が出ると思われる」は5%あった。大半の団体が会議・事業が開催できないなど活動に大きな影響を受けている。
- ◆財政面に「現在影響が出ている」との回答は36%、「今後影響が出ると思われる」は17%あった。退会者による会費やイベント収入の減少などの影響が多くの団体に出ている。
- ◆資金支援希望は35%、各種支援制度に関する情報提供を求める回答が21%、消毒液、マスク等の物資支援希望は12%あった。

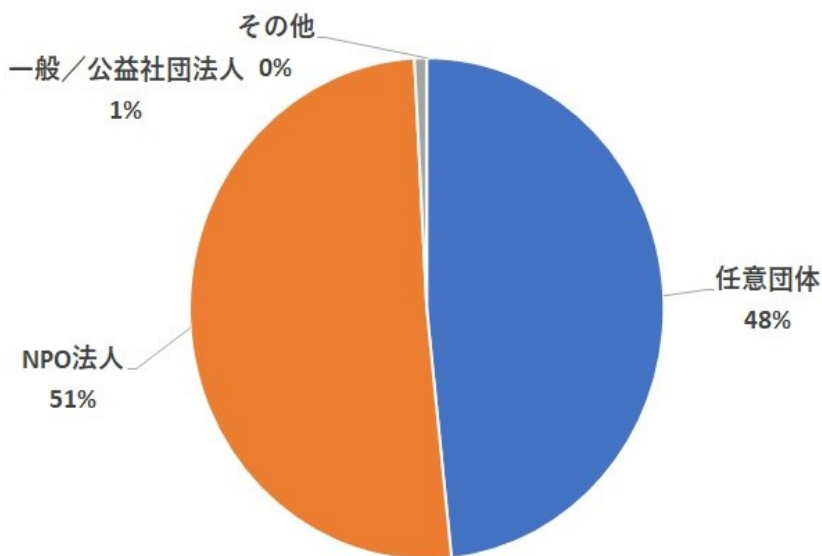
< 要望検討・実施 >

- ◆物資支援について、アンケートに回答があった団体に再調査し、即時対応できるものとして、弊機構が非接触型アルコール消毒液噴霧器、アルコール消毒液、マスクを1セットとして準備。支援希望があった11団体に貸与を実施。
- ◆オンラインツールの活用について、緊急特別講座「Zoom活用術」を8月1日、21日、25日に、3回同内容で実施。
- ◆ぷらざ内専用Wi-Fiを新規設置。
- ◆資金支援について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、設備購入費が必要と多数回答あり。北区地域振興部産業振興課が7月に発信した「新型コロナウイルス対策設備投資支援事業」に補助対象者としてNPO法人も含めてもらうよう、北区地域振興部地域振興課を通して確認したが、今回は中小企業基本法に規定されている中小企業のみが対象との回答であった。
- ◆弊機構が直接、助成・寄付・貸与が難しい案件については、広報誌「ぷらざ通信」やぷらざHPへ掲載。課題を地域住民へ共有し、協力を投げかけた。

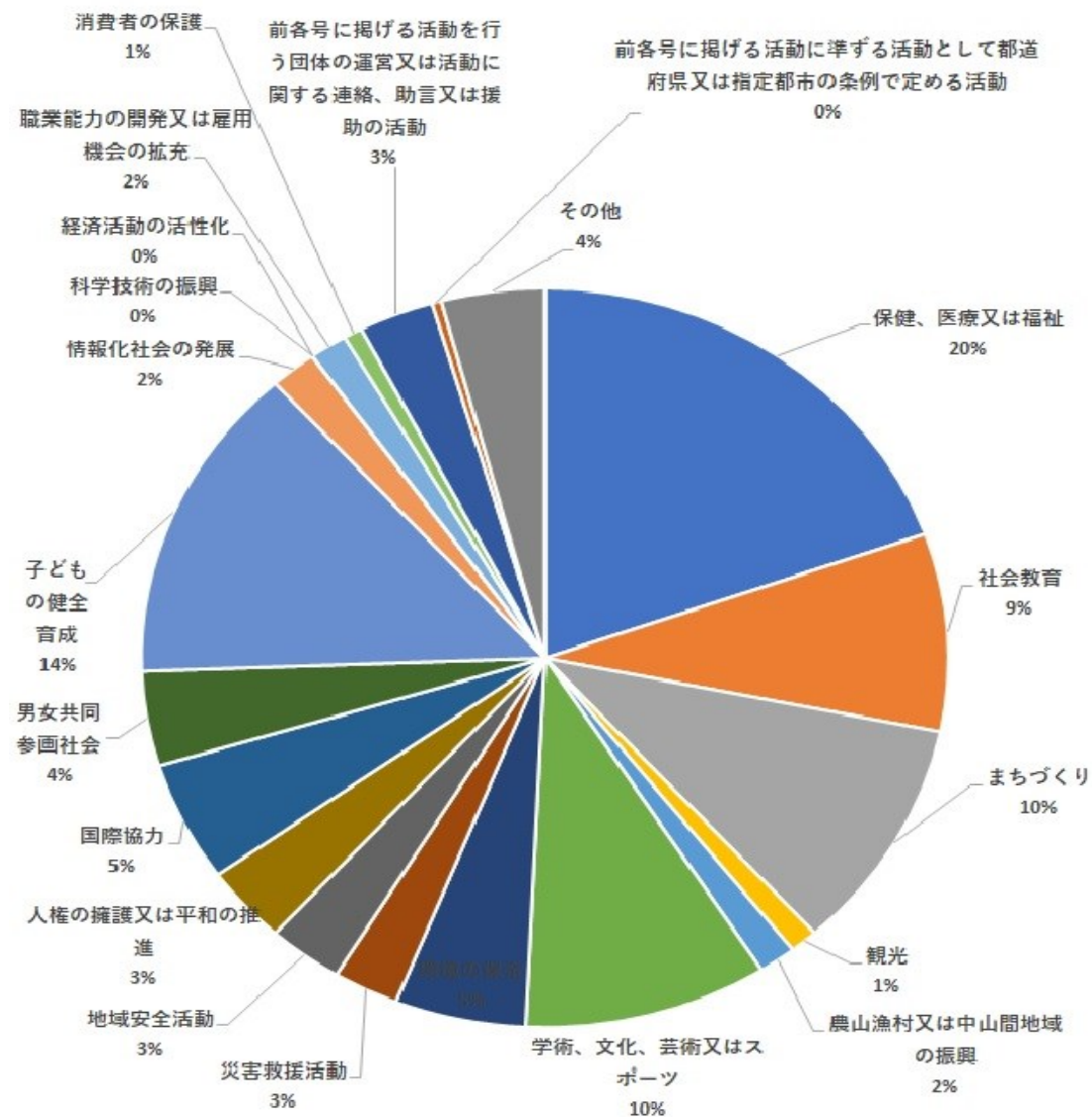
<アンケート結果> (※記述は原則原文のまま、ただし、特定の個人や団体に関する記載は、伏字等で表示)

【Q. 2 回答者属性】

任意団体	NPO法人	一般／公益社団法人	その他
58	61	1	0

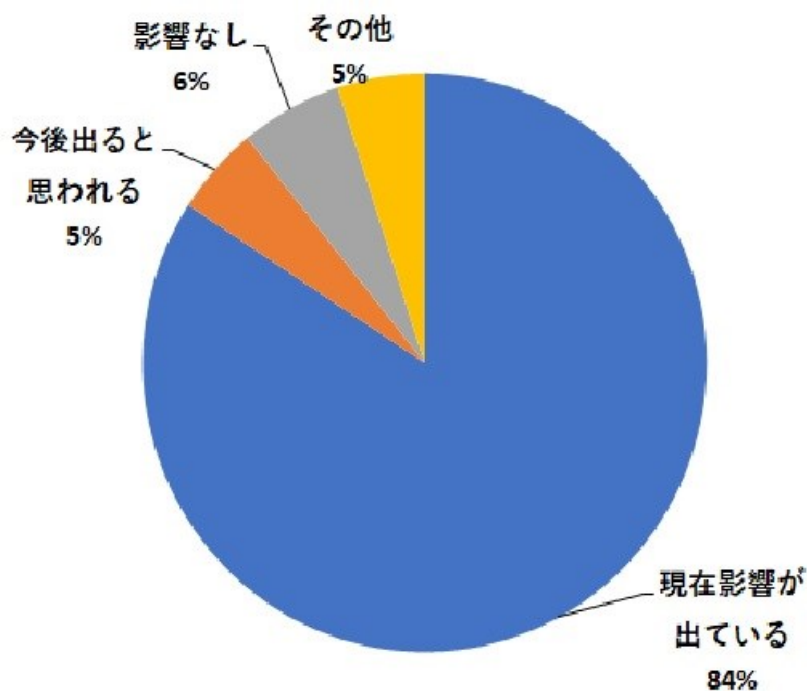


【Q. 3 主な活動の種類(複数回答あり)】



【Q. 4 活動への影響について】

◆活動場所が閉鎖されたり、多くの施設がボランティア受入れを中止したため、市民活動そのものがない団体が多数ある。



・取材件数が減った。

・3月から「学習支援教室」を縮小せざるを得なかった。「子ども食堂」を休み、配布会に切りかえ。6/24より再開したが密集防止のため、定員を減らしている。

・7月下旬に内装工事が完成し、8月から子ども食堂、学習支援を開始しようとしていますが、不確定要因が多々あり、近隣の自治会、園や学校等への広報活動、実施体制などに困難をきたしています。

・会合が開けない。会員の連絡ライン、ファックス、でんわ、郵便等で行って

いるが大変手間と費用がかかる。会場の家賃が払えない。

・出張講座が中止になっている。9月に依頼いただいている講座も未定。

・利用率の低下。受注の減少。職員のコロナへの不安。他、別紙手紙あり。

・活動がすべて中止を余儀なくされています。

・主たる事業が大会開催のため、現状では開催できない。年度事業予定の全てが自粛中。

・対象の施設側の受け入れ自粛による活動休止。

・利用者の制限。オンラインによる支援になる等。

・活動拠点の場所が都立公園内にあるため、使用が出来ず。セミナーの中止、委員会の中止、講演会の中止等。

・ボランティアプログラムが実施できない。

・活動ができない。

・活動や会議のために集まることができない。

・感染拡大防止のため、閉室(3月～5月末)、フリースクール生の家庭への経済的打撃により、フリースクール事業収入の減少、オンライン支援活動や業務会議の実施。

・リアルの会合企画の取り止め。

・活動がほとんどできない。

・4、5月中公園が閉じられ、現在は炊事場が使用不可。

・業務がとどこおっている。

・コロナで開催できなかった絵画教室の利用料を返金した。親の事業が業績不振のため、療育事業を退会した。

・毎月の例会(手話学習会など)を開催できない。

・会場が使えないこと、句会が開けない。

- ・例年のおちやのご祭祭が中止になり、作品作りが中途半端になっている。
- ・イベント開催ができない。
- ・音訳活動を行う上で、担当者が図書館の録音室への移動などでリスクを伴う為、担当の作業ができない等。また、図書館が休館になったため利用者さん達の対面音訳も中止となった。
- ・図書館や児童館でおはなし会を行なっているので、その会場の中止により行なえなくなっている。おはなし会は、赤ちゃんや幼児が対象で密な状態で行うものなので実施できず。
- ・認知症カフェや食事会が出来なくなっている。→地域貢献活動の弱体化
- ・現在動きがありません。
- ・月例会休会中；総会・書面表決方式で開催；記念講演会中止、セミナー中止。
- ・各月の例会活動が休止され活動資金の集金が出来なくなり創誌の発行が難しくなった。
- ・B型利用者の体調悪化。職員の勤務体制の格差。収入減
- ・活動中止している。
- ・研修活動は全てキャンセルです。支援(災害時、後)活動も、移動不可で現地に行くことが難しいです。
- ・活動していない。
- ・感染防止対策としての対応が必要。活動も自粛傾向にある。
- ・会話サロンは対面での活動を主としており、北とぴあを主な開催場所としていたがコロナ閉鎖により会話サロンの実施が不可能になった。
- ・外出自粛中は、香りのお便りカードを自宅で作成してもらい、お世話になった施設等へアロマ消毒ミストと一緒にお届けしました。また、ハンドタッチの活動は対面、接触のため、コロナ感染予防対策では避けることのため、

今後も今まで通りでの実施は難しい。福祉施設、認知症カフェ、ほっと館でのボランティア活動は現在すべて中止状態です。福祉施設などは一般のボランティア受入が可能になっても、利用者との交流のボランティアの受け入れはかなり先が予測されます。

- ・演劇を上演できない。会員が減ったし、増やせないため財政が苦しい。会議する場所の確保。
- ・デイサービス、老人ホームで予定していた音楽ボランティアがすべて中止になりました。
- ・寄付金がなくなった。
- ・手をつなぐ事が忌避されている現状では、活動が難しい。
- ・区からの中止要請にて。認証カフェのため。
- ・対面指導ができず、細かい指導ができない。
- ・年会費の免除をした。
- ・集まったの活動ができない。
- ・事業(イベントや講習会)の発注がなくなった。
- ・スポーツイベント・試合大会が中止になっている。
- ・第3回ばら神輿によるローズページェントパレード5月6日の中止。
- ・今年3月に予定していた支援対象国の一つ、ネパールへの調査旅行を延期した。
- ・事業の中止、延期。
- ・3密な状況を回避しながらの活動で制限が多い。
- ・無印良品ソーシャルグッド部の協力は得なかったが、R不動産の協力を？。ウィズコロナ時代における新しい「二か所生活」ととらえていただいた様だ。日本最初の「小屋の分譲」を河口湖町富士の峯でスタート。西新橋「ドリームビジョン」で広宣中。→二か所生活？

- ・活動が中止になっている。
- ・6月15日から活動を再開したが制限を加え慎重に活動している。
- ・第2波の影響で、自粛が再度行われると寮生活が出来なくなる。
- ・定例会の中止等。
- ・障害(精神)の方の就労や生活支援を行っており、就職先の縮小自宅待機での生活リズムがとれないことや、感染の不安など徐々に声があがってきている。配食弁当の大口客が減っている。
- ・集合研究会と練習の機会が未だできません。本団体が65才の高齢者が多いです。皆様の健康のために活動が一時中止してます。
- ・講座3月～6月まですべて中止。理美容室に来店できない、ご利用者さまへのカット等病院、施設、入居できずキャンセル、申込みが激減する。
- ・活動休止中
- ・高齢者、施設訪問が主な活動だったので、2月中旬から休止中
- ・各サークル、教室が4～6月の3か月間お休みとなってしまいました。
- ・文化センターでの活動をやめて、オンラインで行っている。
- ・介護予防 自主グループ活動(絵本読み聞かせ)。
- ・人が集まったの活動が延期になっている。
- ・活動先の施設が受入れに懸念を抱いているため活動を中止。
- ・来日する留学生が減少し、入居者は帰国し、入居者の激減。
- ・6月半ばまでは集会所が利用できなかったため活動停止。
- ・総会をはじめ、定期的に行っている会議が開けない。今年度予定している事業が実施できるか不安。
- ・ことばの地図作りの現地調査が出来ない、月の定例会が出来ない。
- ・総会は文書総会に。設立25周年記念イベントは中止した。参画事業も中

- 止になった。
- ・役員会、定例会、総会の中止と講演会の延期、高齢者支援活動の中断。
- ・ボランティア活動したいが、社会的状況によりボランティアが出来ない。
- ・会場を失った。常連の学習者すら失った。
- ・活動が出来ない。
- ・人員制限があり、新規の支援者や学習者が受入れ不能です。
- ・講座や研修会の中止。その結果収入がなくなる
- ・事業所でのプログラム、イベントの中止、延期、縮小、人的交流の制限により想定された新規利用者減、障害福祉サービス(収入)の低減、プログラムへの悪影響。
- ・大学の野外実習受入れが中止となり、夏季の中高生の体験ボランティア受入も今のところ予定がない。
- ・水辺の植生調査で最も重要な5月に緊急事態宣言による外出自粛が重なったが、季節を外すことはできないため、例年と異なる体制で調査を決定した。
- ・障害を持つ人の余暇活動が、ゼロになった。
- ・月例会の開催、計画の討議、企画実施時における対応の負担。
- ・6月の検定試験を中止とした。
- ・傾聴のため訪問していた高齢者施設などが、ボランティアの受け入れを休止しています。6、7月の定例会は実施しました。
- ・利用者の減、一部業務休業していた間の収益減。
- ・毎月1回の定例会を開催できない。
- ・自主的に規制を止むなく行い、時期的に年度末、次年度の活動具体策の打ち合わせが不可能になり、遅れ遅れの計画遂行になった。

・「●●図書館カフェ」を開催できなくなり、現在Zoom「●●図書館カフェ」を開催しているが、ネット環境がない方は参加できないのが現状。再開したときには、直接Zoomをやってもらい、コロナ第二波が来た時に自宅からZoomに参加してもらえるように体験をして貰う予定。7月末もしくは8月上旬に再開を考えているが、再開で対面するにあたりコロナ対策がどうしたら十分なのか不安。

・保育園、高齢者施設等のお話し会が中止、勉強会、定例会中止。

・高齢者施設・あんしんセンターなどでの傾聴ボランティア活動が中止になった。また勉強会・定例会は自粛した。

・居場所(サロン)活動をしているが、高齢者が多いこともあり、居場所での活動はまったくできていない。

・活動ができない。会場が利用できない。

・活動がない為、収入がない。

・三密を避けるため相談会が開催できず、ネット環境がない方のご相談が受けられない。

・5月のミーティングが中止になった。

・おちゃのこ祭祭へのイベントの参加など開催中止になり、参加、活動ができなくなった。

・介護者を募集しても、あまり応募がない。

・活動中止。

・会の運営に関する会議、会の主催する研修ができない。

・お客様に対するガイド案内の中止。

・年2回の全体会(講演会、交流会など)が中止になっている。

・利用者の活動が制限されている。

・区レベルの活動は可能になったが、200名以上のイベントを中止。

・午後の活動は休止し、午前だけの活動をしている。人との接し方もミツにならないよう注意し、要件が済み次第退室ということに心がけている。その為、会員どうしのつながりがうすくなっているのが気になっている。

・会員数の減。ソーシャルディスタンスの為にステージ数の増加の必要、会場の確保。会議・イベントの中止。

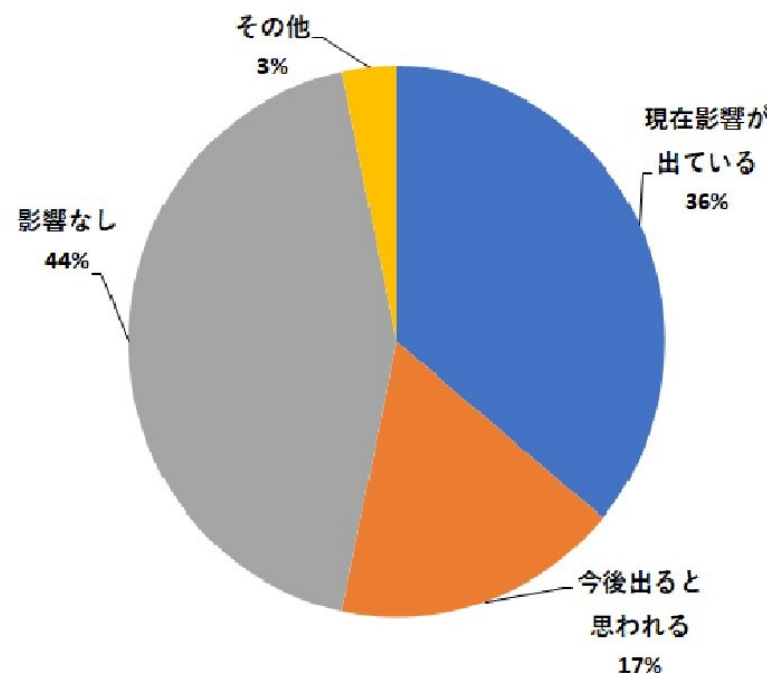
・オンラインでの学習支援導入。

・全て活動中止。

・セミナーの開催ができない。

【Q. 5 財政面に影響が出ていますか？】

◆市民活動ができないため、会員が減ったり、イベント収入が得られないという意見が特にNPO法人で多い。



- ・現在のところ不明、利用者の状態の変化。
- ・活動していない。
- ・区には何度か援助を申し出たが、入口で却下されてきましたので特に影響なし。ただ、●●労組委員長(現●●議員)●●労組委員長を通じて●●町から5億、●●社長の推薦を受けて●●(人名)より40億の援助の申し入れがあったのは事実である。
- ・2ヶ月に1回実施している社会貢献活動の手当を寄付していた為それが、納付出来ない。
- ・配布会は、調理するよりお金がかかった。子どものみ参加限定としているため、保護者の参加費が入らない。
- ・予定している事業の開始が遅れたり、不可能になった場合、すでに受付決定している助成金、これから採否が決まるもの、後期に申請予定のものなどすべてが狂い、転用や代替がどれくらい認められるのか、不安です。
- ・家賃滞納、会合が開けず連絡とり合い困難。連絡に郵送料もかかり大変です。
- ・毎週3回開催している子ども食堂(約60名)の食事が休業 3~4~5~6~7月。
- ・受注の減少、利用率の低下。
- ・会員数が減ったり、大きな会場(高額)を借りるための支出。
- ・ボランティア活動が主のため、事業が開催できない事で通常の維持管理すら得る事が出来ない。
- ・こども食堂が中止となっている。
- ・プログラムができないことによる収入の減少。
- ・子どもの学費を納められない家庭が出てきており、内部で、緊急減免制度をつくり、子どもの学びと居場所を守る取組をしたところ、月額80万円

の減収です。

- ・障害者による喫茶経営困難である。
- ・返金、退会者で収入減となり、家賃等の支払いが大変になる。
- ・活動の拠点となっていた会場が使えず、有料の施設を検討するも、感染予防対策の備品などもそろえねばならず、今まで通りの予算では難しい。
- ・会場を借りた場合の費用。
- ・会議、仕事ができないのに家賃は払っているから。
- ・大きな金額ではないがプライベート依頼の音訳を直接会が受ける場合は、会からの持ち出しになる。通常なら図書館の経費となるはずのものである。
- ・自粛、休業による売り上げ減、消毒等による経費増。
- ・有料講習会の中止による収入減。
- ・例会の当日会費や寄附が得られない。
- ・事業を維持できなくなる。
- ・研修活動が実施できないため収入がない。(Zoom等オンラインで実施するのは難しいカテゴリー(実習あり)のため。)
- ・収入の減少。
- ・収入源となる活動も自粛のため収入が減る。
- ・演劇を上演できない。会員が減った(増やせないため財政が苦しい)会議する場所の確保。
- ・活動に制限がある。
- ・北とぴあで実施する9月と3月の自主コンサートの見通しが立てられず、参加費収入が見込めない。DM費用、当日印刷する資料の代金が赤字になるかも…。

- ・寄付金がなくなり、募金が減った。
- ・活動に制限がある。
- ・運営資金は現在なし。
- ・活動に制限がある。
- ・会員からの活動資金が全くない。
- ・活動資金、アルバイト等の給与不足等。
- ・事業中止に伴う収入減。
- ・演劇教室を開催できず、リモートでの教室を模索している。
- ・活動の場がない。
- ・活動内容の一つである配食弁当の大口客がもどってきていない。
- ・人と会員たちの集合ができません。
- ・事業売上がほとんど無し。
- ・コロナを機に、会員が退会される可能性があります。
- ・助成金の遅れ
- ・9割を占める収入減、事務局を閉じて理事長室に移動
- ・活動による事業収益が減少する。
- ・活動が中止になったことに伴い、収入減になる。
- ・活動に対する助成金の減額、停止。
- ・会場再開後、会場の消毒費の負担を強いられる。
- ・イベントが開らかれない。
- ・企画講座等が実施できないための収入減。
- ・事務所でのプログラム、イベントの中止、延期、縮小、人的交流の制限により想定された新規利用者減、障害福祉サービス(収入)の低減、プログラム

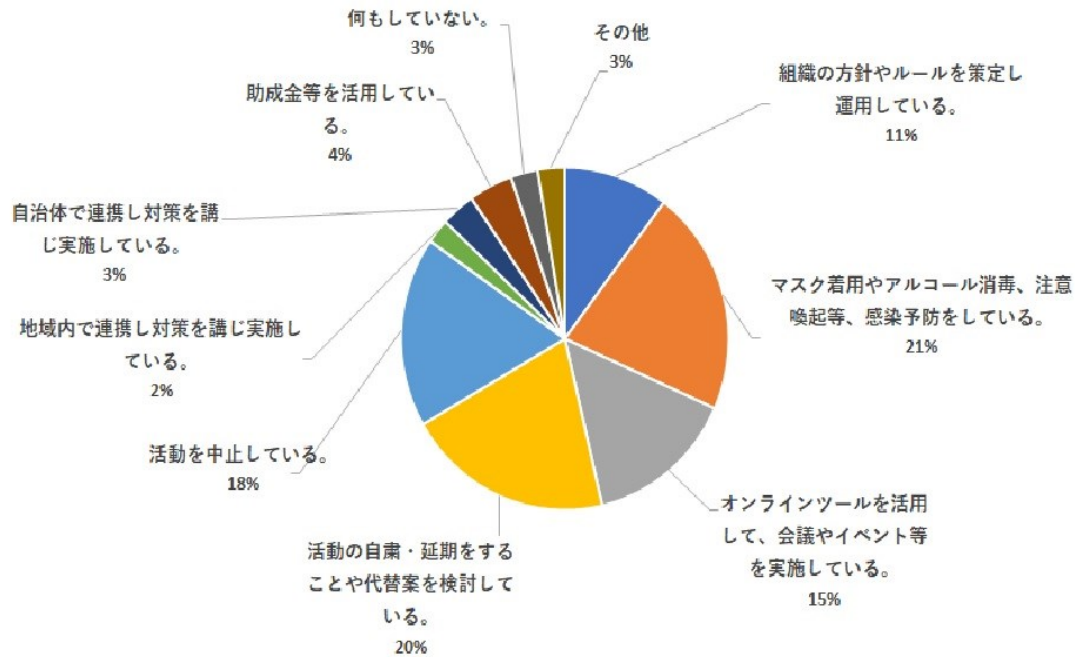
への悪影響。

- ・オンラインツール導入に伴う費用が今後かさむと予想される。
- ・消毒用品や企画参加者への感染防止対応。
- ・資金繰り面で。
- ・緊急事態宣言発令中は利用者と3密を避けるのが難しく、マスク等も手に入らなかった為一部業務を休止していましたが、その分収益が減っています。
- ・当団体の大きな収入の一つの韓国語講座が3月から休止し、無料Zoom韓国語講座を実施。7月から会場での対面型レッスンが始まったが参加者を分散するために会場も分けて利用するため会場費も倍以上かかっている。感染者の広がりによってはまた休止する可能性があることも不安。
- ・定例会、中止により、会費収入がなし 勉強会を各月に致しました。
- ・活動をしていないため、参加者の収入がないが、居場所の家賃、水道光熱費はかかっている。再開準備のための感染防止対策(アルコール、体温計等)費。
- ・活動がない為収入がない。
- ・運営費・活動費となるバザーや譲渡会ができず、売上やご寄付となる広報活動もできません。
- ・法人からのもち出しが多少発生している。会員への返金振込代。
- ・会費の徴収が対面だったため変更検討中。
- ・会員数減少の可能性。
- ・事業計画が未実施で予算が残ってしまう。
- ・会費等の収入減(約15%)ソーシャルディスタンスの為にステージ数の増加や消毒等の経費増加。
- ・参加費の未納、Zoomなどの経費増。

・運営費が足りない

【Q. 6 どのような工夫をしていますか？(複数回答あり)】

◆緊急事態宣言が発令されていた時期とその後では状況が異なり、また活動内容によっても対応が異なっている。



・今後の対策見とおしに苦慮している。よい方法があればおしえて下さい。

・5、6月はオンラインでメンバー交流をしましたが、時間制限やオンライン利用環境も異なり、今後の対応策まで話はできませんでした。7月に会場利用が可能になったため、今後のことはこれから決めていきます。

・現地案内は、現地集合となる。

・本格的なオンライン授業を7月7日から開始する。●●学園とコラボを組

み週4回実施する

・社会状況を見ながら、できれば9月から復帰致します。

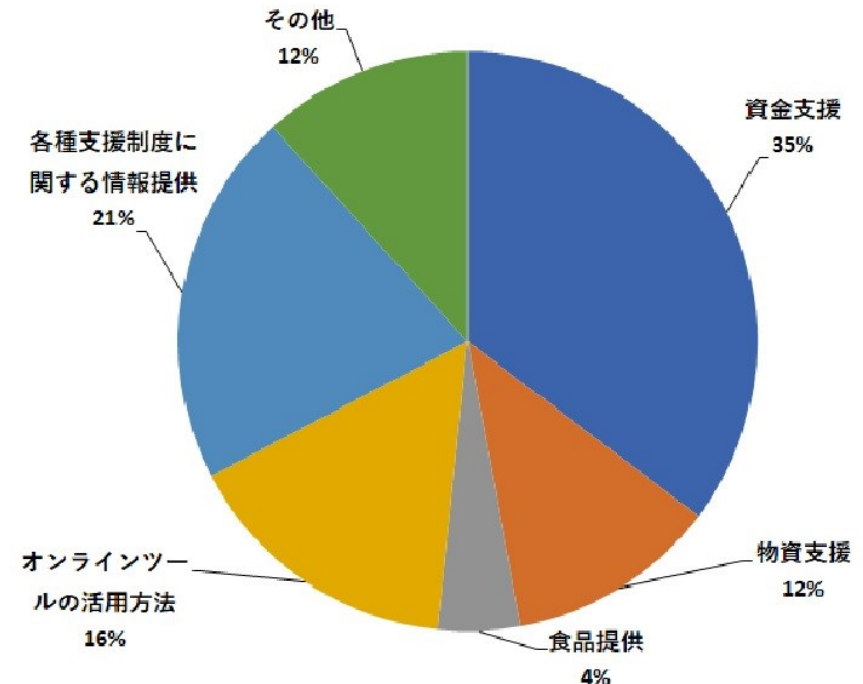
・活動内容に応じ、中止/代替案/予定通りの3段階に分け対応している。
活動する場合は人数を必要最低限に絞っている。

・手紙、はがき等を利用し、情報提供とサロンのお休みのお知らせをしている。

・主にTNR活動のため、最小限(1~2人)でネコの捕獲や病院搬送をしています

【Q. 7 今後、必要な支援策はありますか？】

◆運営資金の援助が最も求められている。



- ・自治体と連携して対策を講じたい。
- ・活動スペース等の提供、公共施設を倍増し、NPO活動へ提供いただきたい。
- ・ぷらざから推選発信。
- ・区内の各施設で、対面が可能なアクリル板シールドの貸し出しがされるようになると助かる。団体での用意や持ち運びは難しい。
- ・対面指導ができる場所(難しいと思いますが…)
- ・今後土地代は無料(→避難小屋)ともなるので小屋が建てられる。「趣味人の森」を創っていく事になるが、北区でこの活動を20年やっている事の情報くらいは出してほしい。
- ・感染者が出た場合の施設内の消毒、PCR検査受診希望者の経費負担など。
- ・できれば活動と研究会の場所をご支援いただきたいです。
- ・時と場合によってオンライン、サロンなどでの活動を検討中。
- ・同種の活動をしている団体の活動状況。
- ・会場の提供、使用制限の緩和。
- ・会議室・打合せスペースの3密対策と開放。
- ・わからない。
- ・屋外・玄関先などの施設利用を可能になると有難いです。
- ・マスク、アルコール消毒等、通信インフラWifi等。
- ・企業や個人からの寄付。
- ・社協、地域振興課、産業振興課など、様々な部署がからみ、右往左往しているので、ワンストップの支援窓口を設けて頂きたい。
- ・家賃の補助、パソコン・スマホの活用携帯・援助、資金補助。

- ・各種支援制度に関する情報。
- ・公民館等で集団でイベントを行う際のガイドライン(安全、コロナ対策)。
- ・運営費・事業、利用者に対する支援制度情報。
- ・会場費の値下げ。(文化センターや会館)
- ・活動再開まで協会活動を、維持するための固定経費が希望。
- ・WiFiの拡充、オンラインツールの拡充(PC、マイク等)。
- ・活動維持にあてられる助成金等。
- ・活動に必要な道具、衛生用品、アルコール消毒済。
- ・資金支援を継続してほしい。
- ・無料または助成を受けられる会場の提供、聴覚障害者は通常のマスクだと口形が読み取れず、コミュニケーション不全になってしまうので、フェイスシールドや透明マスクの調達が必要。
- ・句会では会費をとっていないので会場費などあれば助かる。
- ・材料費など。
- ・前年度同期の収入比較ではなく年間比較での支援金ではないと、NPOの活動は、毎年同じ月にやるとは限らない。しかし、事務所経費は毎月かかるので。
- ・オンラインでの合成音声での音訳作業がここで活かされました。現在ソフトは4台分しかないのでソフトの購入やPCの購入が急務と考えています。
- ・売り上げ減の補填。
- ・ZOOMミーティングの活用方法。
- ・助成金。
- ・事業を維持してくのに足りない額の補てん。
- ・NPOやグループでも使える支援制度をまとめて情報提供していただける

とありがたい。資金支援はぜひ！固定費、その他事前購入チケット(未来に講習を受ける)を発行します。ぶらざからもご紹介戴けると幸いです。

・マスク、ガーゼ、消毒剤の提供。

・対面での活動は感染リスクが有るためできるだけオンライン等を活用した活動体系に移行しようとしているが、IT関連のスキルが少ないためその支援およびシステム構築かかる費用の支援。

・初めてオンラインに参加する人はアプリインストールからわからないため、操作などのレクチャーをぶらざで随時対応してもらえると利用しやすくなるかも。メールや電話、書面での説明ではわからない人や不安な人や高齢者には対面での説明が必要なため。

・助成金。さくらホール会場費免除(コロナの間)または半額。

・いくらでも良いのでサポート。

・自主コンサートでは事前に会場費以外に広報費用が発生します。今年3月のコンサートは北とぴあの会場使用料は返還されましたが、約300通のDM代がムダになりました。

・支援金があれば。

・行政側の決定が有れば申し込む。

・いくらでも良いのでサポート。

・ビデオ撮影の方法、ユーチューブへのアップの方法、広報の方法など。

・いくらでも良いのでサポート。

・活動資金が欲しいです。

・運営資金等が必要。

・スポーツ施設の使用料補助。コロナ対策グッズの購入費支援。

・パレード実施費用への支援。

・早く海外への出入国が以前の様に自由に行なえる状態にもどってほしい。

・リモート教室のため、機器を充実させる資金が必要です。

・●●証券部長、●●社長、●●町長、●●町長、●●建設、●●(企業名)等、支援はあったが、北区の支援があれば、実行はもっと早かったかなと思う。

・4、5月の自粛の時に、アルコール・マスク・トイレトペーパー等が品薄になったことで困ったので、第2波でどういう影響がでるかかわからないが、その都度必要とする物。

・各自のパソコンにソフト(ツール)を入れる。

・新型コロナウイルス以前、貴処たくさんお世話になってます。もし9月から復活になってから、また場所と機器などの活用をお願い致します。

・資金面、事務所家賃の免除。

・情報提供。

・無償に近い形での活動の拠点(部屋の提供)を確保したい。

・通信費や設備費の支援が欲しい。

・感染予防対策を実施を前提に、使用時間、人数の若干の制限をもうけたうえでの会場使用を可能にしてほしい。少なくとも活動停止にならないよう、打合せや情報交換は継続して、コロナ禍での新しい活動形態をつくるために必要。

・消毒用資材を支給して欲しい。

・法人継続維持資金(家賃、事務員給与)の援助がほしい会員はボランティアで法人を支えています。

・非常用品、非常用水・食料とそれを保管する場所、今後事業所で感染者が出た時の金銭的、その他の支援的対応。

・①資金支援:オンライン会議システム導入に必要なWebカメラ、マイク、ソフトの購入費とWifi等の通信費が今後かさむと予想されるため、助成等の支援をお願いしたい。②物資支援:水辺活動に必要な資機材の収納倉庫が狭く、これまではコンパクトに整理しながら使ってきた。今後は感染症対策備品の蓄積や、搬出入時の3密を避けるため、スペースは極力広くして頂きたく、倉庫の拡充をお願いしたい(災害支援時にも役に立つ)。④オンラインツールの活用方法:オンライン会議については、活用前の導入段階が下記の通り最もハードルが高い。・様々なWebカメラ、マイク、ソフトが出回っており、通信環境にも多様なプランがあるため、選定する段階で迷う。・Webカメラ、マイク、ソフトの初期設定が難しい。・会員の一部が準備し他の会員に呼びかけても、未経験の方には敷居が高くなかなか普及しない。これを解決するには、一度対面でオンライン体験や初期設定を行うだけで敷居は大幅に下がるのだが、人を集めての講習会や体験会の開催は現状NGとされている。そこで、未経験者を対象としたオンラインツールの導入相談をふらぎで受け付けるなど、少人数での対面による活用支援を是非お願いしたい。⑥その他(会議室、打合せスペースの3密対策と開放):会議室等の場が使えなくなると、活動が大変困難になるため、透明仕切り板、アルコール消毒液、体温計等を設置し、極力開放して頂きたい。また、ふらぎのサロンコーナー・交流コーナーを始め、区立施設の会議室に、オンライン会議が可能な高速Wifi環境の整備を求めたい。

・使用施設の情報。

・高齢の方にわかりやすく、我々の様な団体がマスクを外さない理由、換気を求める理由等コロナで新しく変わる生活様式や3密を防ぐ方法等の周知啓発用のやわらかいちらしの様なものがあるといいなと思います。

・1)アルコール消毒、手指の消毒など対面時活動に必要な支援していただける制度があると嬉しい2)NPOボランティアふらぎのテーブルの上の飛沫防止シートは参加する人たちにとってはとても安心できるものです。「●●図書館カフェ」再開時に飛沫防止シートをつくる方法、材料費と材料調達場所などを含めて教えて欲しいです。3)コロナ第二波時に高齢者や外国人

が孤立しないように、●●図書館カフェを再開時には対面でZOOMを参加者に利用していただきながら教え、ご自宅でもできるように進めて行こうと思っていますが、レンタル無料Wifiがありましたら教えて頂きたいです。※当団体内、団地のミーティングでぜひ提案したいと思いますので、7月20日までに教えていただけると嬉しいです。

・私たちの会は、オンラインツールを活用する方が少ないです。今後、ツールの利用も検討する必要があると思われます。むずかしいですが!!

・高齢者施設などのボランティアの受入・対応の情報。ボランティア活動のガイドライン。

・居場所の家賃補助。

・学習支援に使用する胴長・たもあみの支給希望。収入がない為買う事が出来ない。

・屋外利用が可能な場合は、定期相談会や広報活動を実施したいと思えます。

・情報機器購入支援。

・オンラインツールを使用できない者がいるため、機材と場所を借用できれば良い。

・介護者を募集するための経費の支援が欲しい。

・アイデアレベルで具体化していない。PC、スマホを使った具体策があるなら示して欲しい。

・マスク、消毒液、保存の効く食品が切れる事なく、継続的な支援、災害が同時に起こった時の対応の徹底。

・オンラインツールの学習会等を希望します。

・会場費・定員減にみあった割り引きを。会場でWi-Fiが使える。

・無料Wifiの充実、オンラインツールの充実。

- ・衛生用品が足りない(今後活動準備として)
- ・現在中止しているが活動開始となると、会場費、食材等の負担が出てくる。又、対策として衛生用品が足りない。
- ・特になし。

【Q. 8 今後懸念されることについて】

- ・感染予防の為、汁もの(スープ、みそ汁)の提供を控えているが提供したい。インスタントを提供することもできるが、お金もかかるし、「手作り」とは言えない。
- ・事業のスタッフは、北区だけでなく、都内近県から集まってくる予定なので、予約なしで集まって打合せできる場所として、ボランティアparaぎを使えるようにして頂きたいのに、要予約、人数制限付きの現状がいつまで続くのか…。
- ・コロナの二波、三波が大変心配です。会員の顔を見てはじめて様子が分かるのに訪問も制限され会うことがむずかしいです。毎月開いてる福祉講座が開けませんし、その他すべての活動が、中止をしなければならない状況です。
- ・コロナ問題。
- ・利用者・職員の事業所離れや離職。
- ・活動のための会場が休館になること。
- ・協会としての活動の「ハタン」。
- ・ワクチン、抜本的治療薬ができない限り、活動は中止せざるを得ない。受け入れ先の老人施設はボランティアを受け入れることは実際不可。
- ・万一感染者がでた時の対応について十分な準備ができるかどうか。
- ・定員や収容可能人数により、受け入れに制限がつくとすれば、事業モデル

の変更が必要。

- ・本調査内容とは外れますが、このようなアンケートに郵送費、印刷、人権費を預やす貴組織の体質に懸念を有しております。公費(税金)の効率的な活用を期待致します。失礼しました。
- ・活動の場が狭く、三密を避けられない場合、場所を変更するのか、活動を中止するのか?活動の内容をかえていくのか…今後の検討事項です。
- ・会員減少。
- ・休会が長引くと会員の気持ちやモチベーションが下がってしまい、マスク社会の中で孤立する中途失聴・難聴者の増大につながってしまう。
- ・長い自粛に入っているの、ボランティアに対する気力がうすらいで来た様に感じる。高齢者の多い会では、自粛前の精神に戻るのがむずかしい。
- ・基本が視覚障害者への支援なのですが、こういう時に弱者へしわ寄せが起きます。何か月も対面音訳が出来ないと利用者さんだけではかたづかない書類もたまりますし絆面でも孤立傾向になります。リクエストされればプライベートで音訳しますと伝えても、団体さんの負担で申しわけないとかあって気遣われます。お金で買って本を読める晴眼者の方たちでも図書館休館で読む本が無くなったと言っていますが、視覚障害者は買うことにも障害があります。今後もまた図書館が休館となった場合、ボランティアparaぎの場所とかも使わせていただけるとありがたいです。
- ・3密の実施等による、売り上げ減、経費増が長期化することが予想されるので、乗りきれんかどうか不安。
- ・コロナウイルスの害がこれ以上続いたら活動もむずかしくならざるをえない。
- ・国から下々まで、行政が行政の責任を果たさず自己責任と個人へ何でも丸投げ、税金を払う意味が全くない。実質法治から自治国家になっているのでこの国で生きていける希望が持てない。

- ・第2波、第3波が来ること。今はなんとか持ちこたえています、今後更にコロナ渦が続くと、固定費の念出が難しくなると懸念しています。
- ・毎年今年こそは活動と意思つつ各人仕事等持っているのでもとまって活動すること難しくなっているのが現状。
- ・感染が事業所内で起きること。
- ・活動をすることでの感染の不安、対面でのボランティアを含め活動が減ることによるメンバーの意欲低下および退会・休会希望など。）
- ・コロナの終りがみえないこと自分達の活動の中で感染者がでること。
- ・高齢者に歌っていただく音楽ボランティアなので、完全に元のように活動できるのには、相当時間がかかるのではないかと思います。個人的には今年中はムリかと思えます。
- ・スタッフ個人のアルバイトや給付金でどこまで続けられるか。
- ・3月からオンライン指導をスタートし、元の対面に戻れなくなる人が多いです…。
- ・終息の早期実現を願うばかりです。
- ・経済活動にアクセルをふむと、感染者数が増大し、市民活動にブレーキがかかる。感染リスクの高い経済活動(ホストクラブなど)には保障をつけてブレーキを！
- ・●●区は、もしなにかあれば、●●村に一万人の避難民を受け入れる事になっている。●●参議院議員も、●●県知事も●●村長を紹介してくれ、●●(地名)で10年のシュミレーションをしている。北区も地方自治体とのつながりがあるのだから、北区地場以外の支援を、入口でシャットアウトしないでほしい。
- ・今回北区の小中の家庭にタブレットを配布してもらい実施費用が50万程度で済んだ。当初80万円予算化した。
- ・衛生面に気をつけ、感染を出来るだけさけるように日々の生活に気をつ

けたい。

- ・コロナの終了がわからない。
- ・感染者が身近で出た場合の利用者の方々の不安に対する(パニック)対応と対策～医療関係者(保健師等)からの安心できる説明など～。
- ・ありません。また、よろしくお願い致します。謝々！
- ・講座(イベント)、東京の感染数が高くなって来た為。
- ・今年度の展覧会が中止となってしまう、今後の会の活動をどのようにしたらいいか、とまどいを感じます。すべて初めてのことで不安です。来年はどうなるのかと、今から心配です。
- ・オンラインツールの活用方のお手つだいできると思います。
- ・コロナ渦がいつまで続くのか、それによって活動の内容を考え直さなければならぬ。
- ・少なくとも活動停止にならないよう、打合せや情報交換は継続して、コロナ渦での新しい活動形態をつくるために必要。
- ・コロナのためたくさんひとのしごとがなくなってせいかつがこまっています。そのひとたちにポロバショポロジェンもたつけてます。あとマスク。アルコールなどたつけてます。
- ・私達の団体は、ひとり暮らし高齢者がほとんどのため活動は中止状態 7月より開始。それ以前、誰とも会ったり、会話出来ない事がそれぞれに影響を及ぼしていると実感。
- ・非常事態により急発の費用は、行政の方が、負担力はあると思う。活動団体に賦課しないで欲しい。
- ・新規をとれないため、活動が本格化しても続けられるかどうか不安。
- ・現在のままの状態が続くと、2～3年で法人をとじなければならない。
- ・非常用品、非常用水、食料とそれを保管する場所、今後事業所で感染者が

出た時の金銭的、その他の支援的対応。

・野外で生物や環境を対象とするボランティアは、活動の季節が重要なため、原則「延期」しにくい活動ばかりです。特に、今年は、令和元年東日本台風による洪水攪乱を受けた調査や維持管理が多く、特別な年に当たります。新型コロナ第2波・第3波で1か月以上の外出自粛を再度求められる事態になると、活動が大変苦しくなります。

・人員不足のために活動できない状態が続いていますので、コロナ禍の影響は出てません。

・もう、こういう型では、できなくなったと思う。

・高齢の方が多くオンラインツールが利用できないので何か良い方法があれば共有して欲しい。

・またボランティアがらが利用できなくなるような事態になった場合のこと。

・2次感染による、再び自粛規制が行われるとすると、活動に再び影響がでてしまう。

・今はわかりませんが、メンバーと話し合い解決していきたい。何かありましたらそのつどお話しします。

・傾聴ボランティアにおいて密接を防ぐのはむずかしい。

・対策を考えているが、どこまでの対策をすれば良いのか、場所が狭いため、不安がある。北区の高齢者会食推進事業の補助金があることで、成り立っているところがあります。

・会合の実施をどのようにすべきか会員内で意見が分かれており内部の合意形成がむずかしい。

・地域猫活動のためコロナ感染が不安な方が相談時期を遅らせてしまう事で、ネコの頭数が増えてしまい(出産後)の相談になり、手術も諦めてしまう事が多く、とても心配です。

・来年以降の活動の見通しが立たない。

・利用者、介護者に感染者が出た場合の対応。

・新型コロナ問題による厚労省や保険者から通知などをふまえたケアマネージャーの業務、特にケアマネジメント業務の実際の運用がいくつも変更されました。今後いつまで『臨時的な対応』が続くのか、通常のやり方に戻った後も感染問題の悪化の繰り返しが予想されます。現実には第2波の形で身近に迫っていると感じています。今後もケアマネが正確な情報の共有と対応、関係団体との連携を通じて利用者、地域を支えていくための活動は必要ですが、日々の業務に追われ、会の活動に支障が出ている中でもがき苦しんでいます。収束と再燃が繰り返される懸念の中で組織的な活動ができない中、新たな活動形態を模索しています。

・コロナが長引けば、入会者が減り、組織的に弱体化する。

・コロナウイルスの収束がみえないので、今後の活動の見通しをつけるのがむずかしい。

・ヒトとの出会いコミュニケーション不足による子どもの成長への悪影響。文化・芸術の衰退。

・ボランティアの参加の減少。

・地域社会のネットワーク作りに支障。

・特になし。

《本アンケートについて》

新型コロナウイルス感染拡大により、2020年1月～6月中に受けた影響や今後の見通しについて、北区内のボランティア・市民活動団体、NPO法人の皆様にご協力賜り緊急アンケートを実施しました。厳しい現状の中、多くのご意見をいただくことができました。今回いただいた全てのご意見、ご要望は関係各所にも共有し、支援や改善につながるよう努めていきます。ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

●本アンケート結果の無断転載、複製は禁じます。

《本アンケートに関する連絡先》

特定非営利活動法人東京都北区市民活動推進機構(北区NPO・ボランティアparaざ内)

〒114-8503 東京都北区王子1-11-1 北とぴあ4階

電話:03-5390-1771 FAX:03-5390-1778

E-mail: plaza@kitaku-vplaza@tokyo.jp

URL: <http://kitaku-vplaza.tokyo.jp/>